

令和6年度「子どもの生活状況調査」【結果概要】

令和7年2月

神奈川県

1. 調査概要

(1) 目的

本調査は、神奈川県内全域の小学5年生及び16・17歳とその保護者を対象に、子どもの貧困の実態と課題を把握するとともに、子どもに関する計画の策定及び施策の検討のための基礎資料とすることを目的に実施した。

(2) 調査内容

①保護者調査票：

生活の状況、就労状況、心理的な状況、暮らし向き、主観的幸福感、支援の利用状況など

②小学5年生票及び16歳・17歳票：

学習環境・習慣、進学希望、食事の頻度、主観的幸福感、支援の利用状況、ケアラー状況など

(3) 対象者

住民基本台帳から層化無作為抽出法により抽出した小学5年生及び16・17歳とその保護者各5,000組の合計10,000組

(4) 調査期間

令和6年7月～8月

(5) 回収結果

	配布件数	有効回答件数	有効回答率
小学5年生保護者票	5,000件	2,076件	41.5%
小学5年生票	5,000件	1,993件	39.9%
うち、マッチング票		1,949組	39.0%
	配布件数	有効回答件数	有効回答率
16歳・17歳保護者票	5,000件	1,801件	36.0%
16歳・17歳票	5,000件	1,730件	34.6%
うち、マッチング票		1,599組	32.0%

※マッチング票とは、親子関係等にある小学5年生保護者票と小学5年生票、あるいは16歳・17歳保護者票と16歳・17歳票をIDで紐づけたものである。

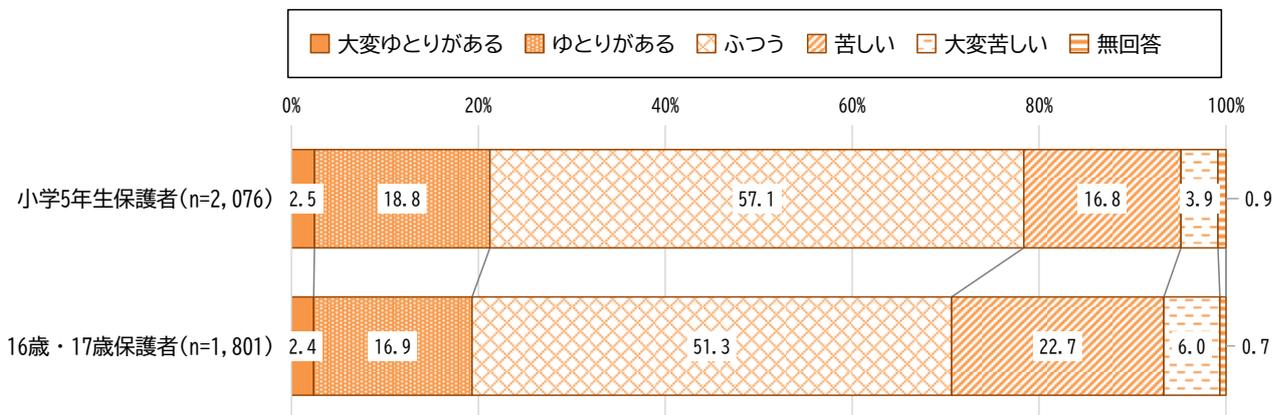
2. 調査結果(保護者の生活状況)

2-1 ▼保護者の暮らし向き、生活満足度

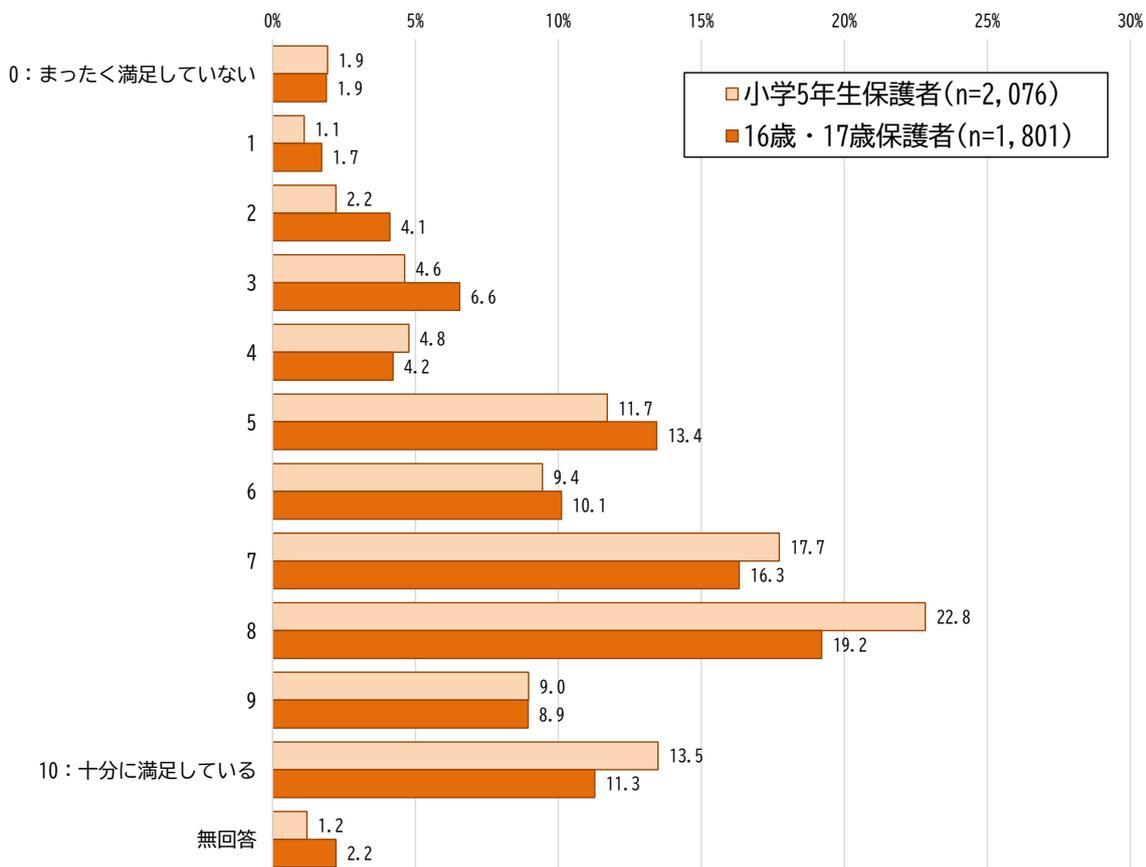
保護者の現在の暮らしの状況についての認識は、いずれの調査でも「ふつう」の割合が最も高くなっている。「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合は、小学5年生保護者調査では 20.7%、16 歳・17 歳保護者調査では 28.7%となっている。

生活満足度について、「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の 11 段階による回答においては、いずれの調査でも「8」の回答割合が最も高く、次いで「7」の回答割合が高くなっている。

<現在の暮らしの状況についての認識>



<生活満足度>

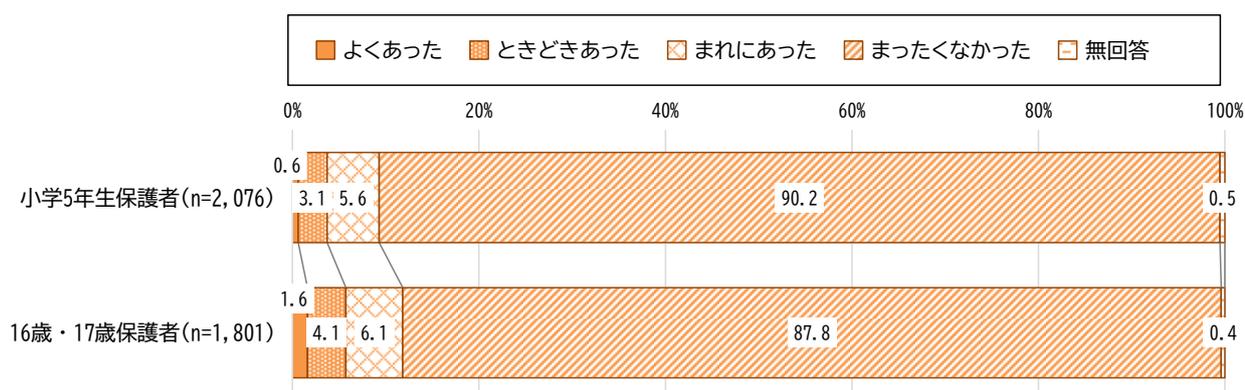


2-2 ▼食料や衣服の欠乏経験

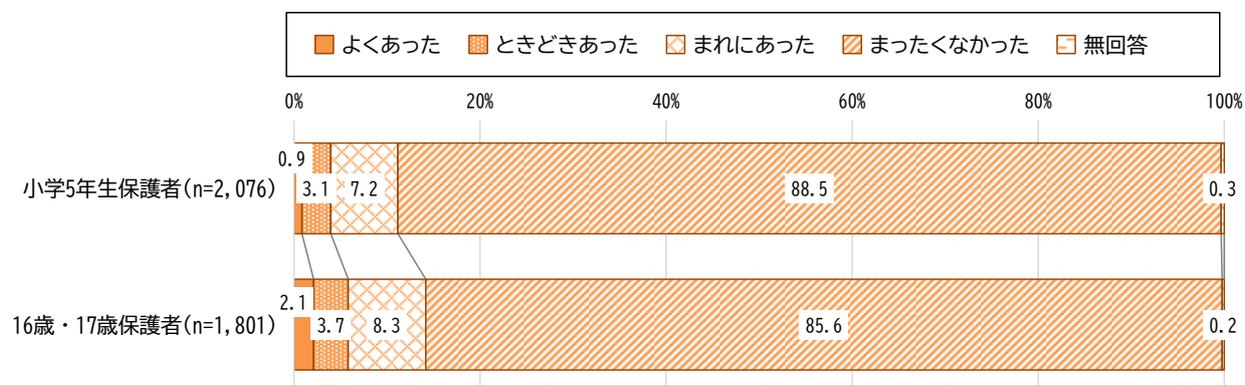
必要とする食料が買えないことがあった経験について、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は、小学5年生保護者調査では 9.3%、16 歳・17 歳保護者調査では 11.8%となっている。

また、必要とする衣服が買えないことがあった経験について、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は、小学5年生保護者調査では 11.2%、16 歳・17 歳保護者調査では 14.1%となっている。

<必要とする食料が買えないことがあった経験>



<必要とする衣服が買えないことがあった経験>



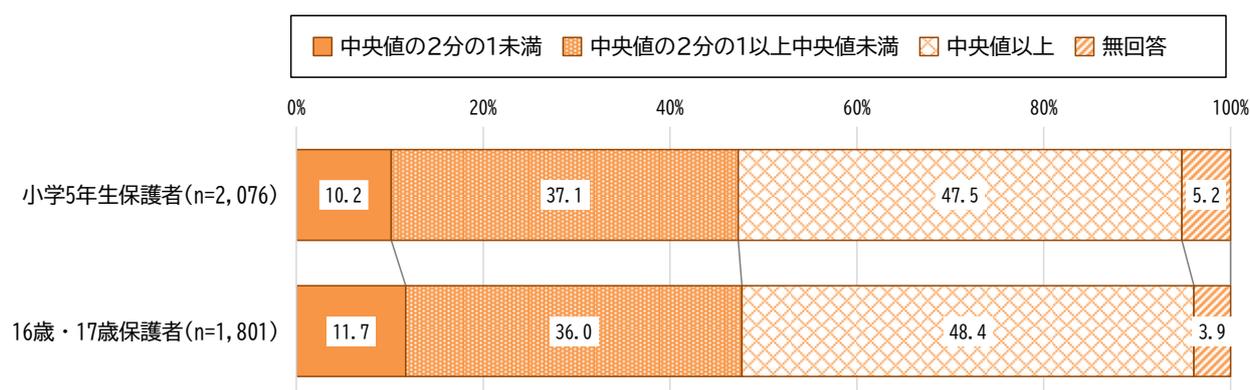
2-3 ▼世帯全体の年間収入、等価世帯収入

2-3-1 ▼世帯全体の年間収入と等価世帯収入の水準に関する分類

世帯の年間収入の回答と世帯の人数の回答をもとに「等価世帯収入」を算出した。等価世帯収入の中央値は、小学5年生保護者調査では396.9万円、16歳・17歳保護者調査では425.0万円であった。

これらの中央値を基準とすると、「中央値の2分の1未満」の水準に該当する割合は、小学5年生保護者調査では10.2%、16歳・17歳保護者調査では11.7%となっている。

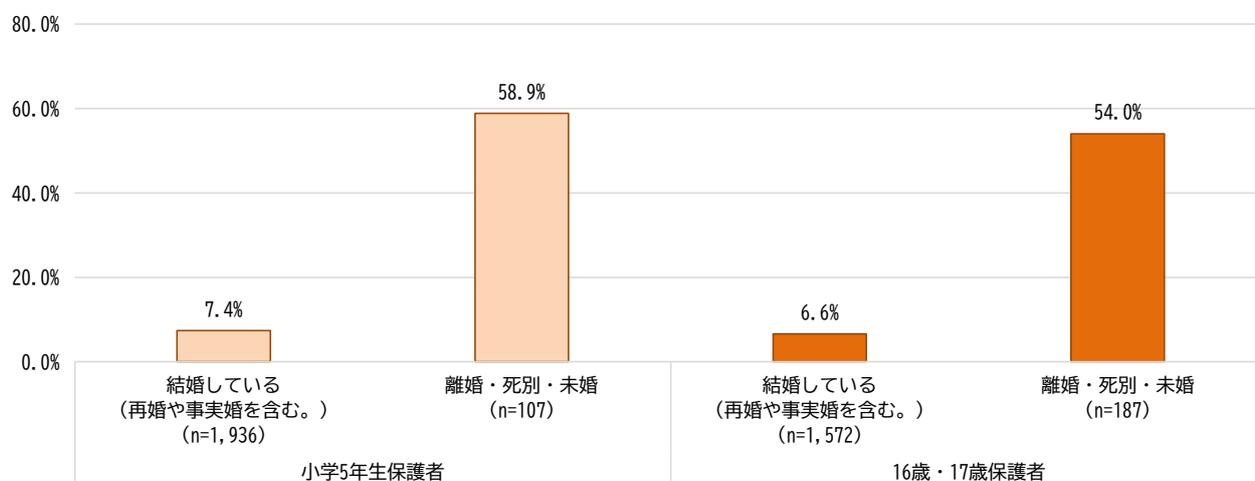
<等価世帯収入の水準に関する分類>



2-3-2 ▼等価世帯収入の水準と家族形態

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合は、いずれの調査でも婚姻状況が「離婚」、「死別」、「未婚」のいずれかに該当する場合（ひとり親世帯の場合）には5割超となっている。

<婚姻の状況別、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する割合>

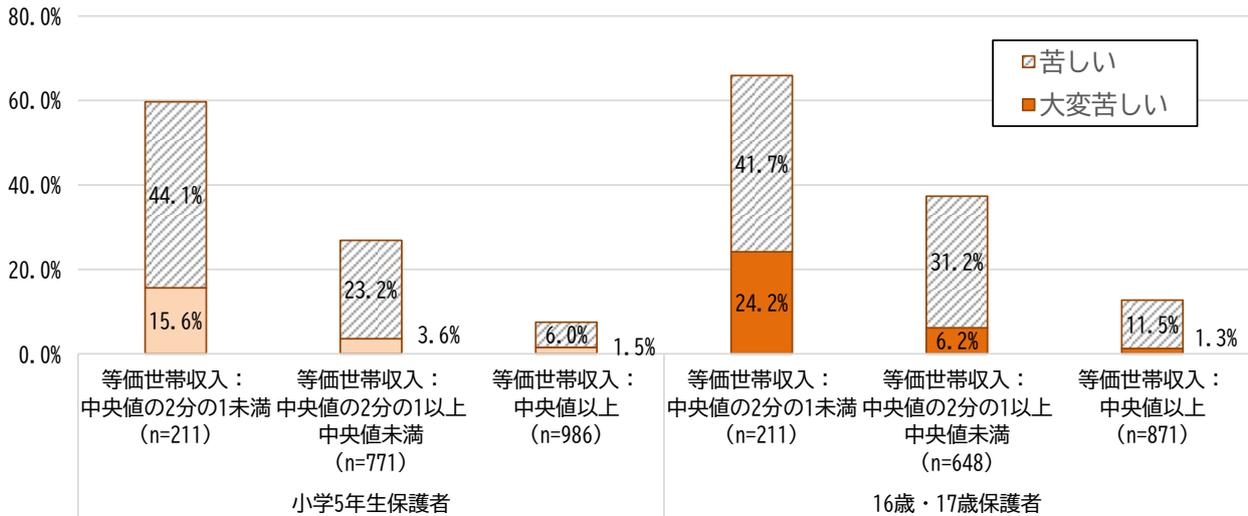


2-3-3 ▼等価世帯収入の水準と暮らし向き、生活満足度

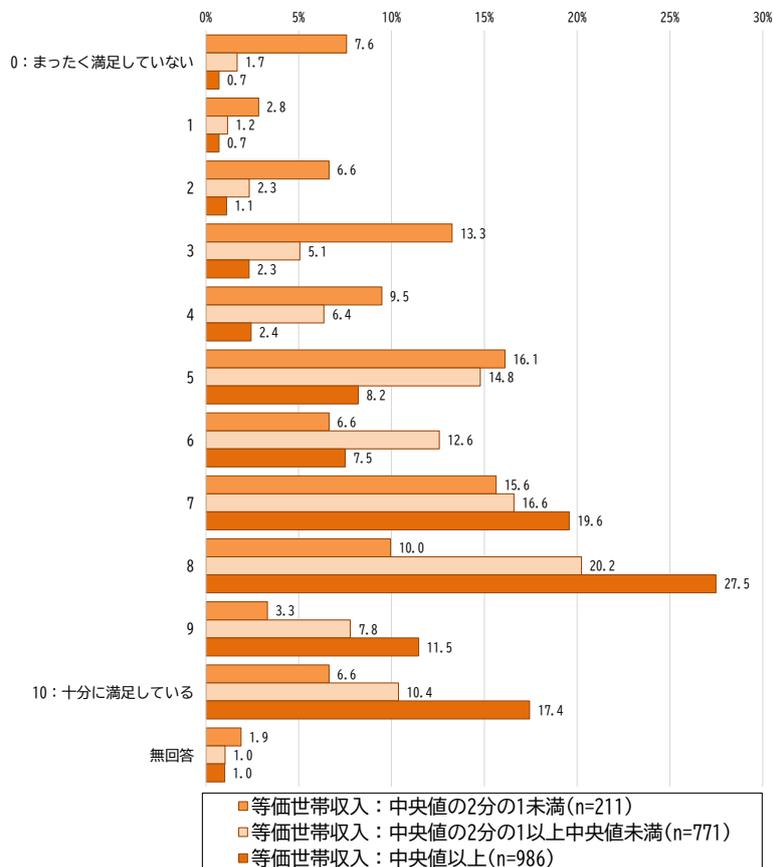
暮らしの状況について「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合を等価世帯収入の水準別にみると、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に、その割合は小学5年生保護者調査では59.7%、16歳・17歳保護者調査では65.9%となっている。

また、生活満足度について比較すると、等価世帯収入の水準によって生活満足度の回答に差異があり、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が低いほど、生活満足度が低い傾向となっている。

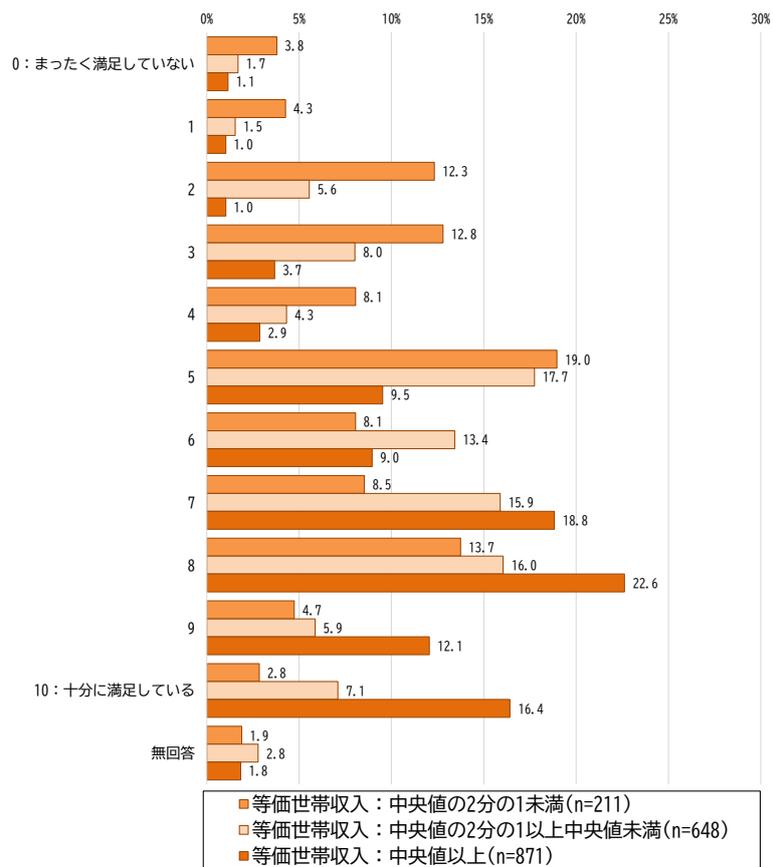
<等価世帯収入の水準別、暮らし向きについて「苦しい」又は「大変苦しい」と回答された割合>



<小学5年生保護者、等価世帯収入の水準別、生活満足度>



<16歳・17歳保護者、等価世帯収入の水準別、生活満足度>

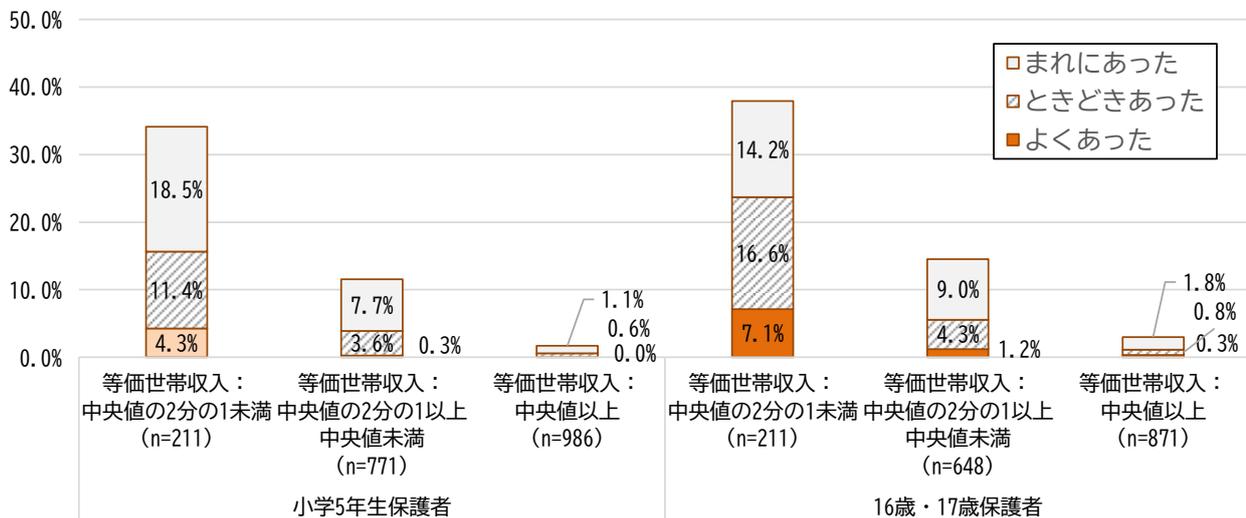


2-3-4 ▼等価世帯収入の水準と欠乏経験

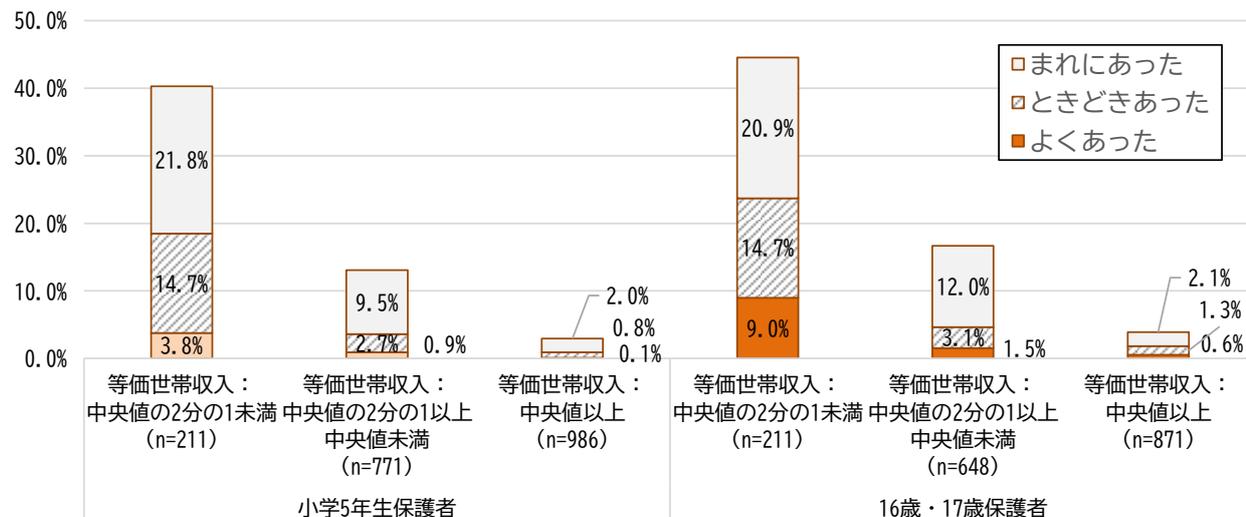
必要とする食料が買えないことがあった経験について「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合を等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合には割合が低い一方で、「中央値の2分の1未満」に該当する場合には割合が高い傾向となっている。等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に、「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は小学5年生保護者調査で 34.2%、16歳・17歳保護者調査では 37.9%となっている。

同様に、必要とする衣服が買えないことがあった経験に関しては、等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合に、買えないことが「よくあった」、「ときどきあった」、「まれにあった」のいずれかに該当する割合は小学5年生保護者調査で 40.3%、16歳・17歳保護者調査では 44.6%となっている。

<等価世帯収入の水準別、必要とする食料が買えないことがあった経験>



<等価世帯収入の水準別、必要とする衣服が買えないことがあった経験>



3. 調査結果(こどもの生活状況)

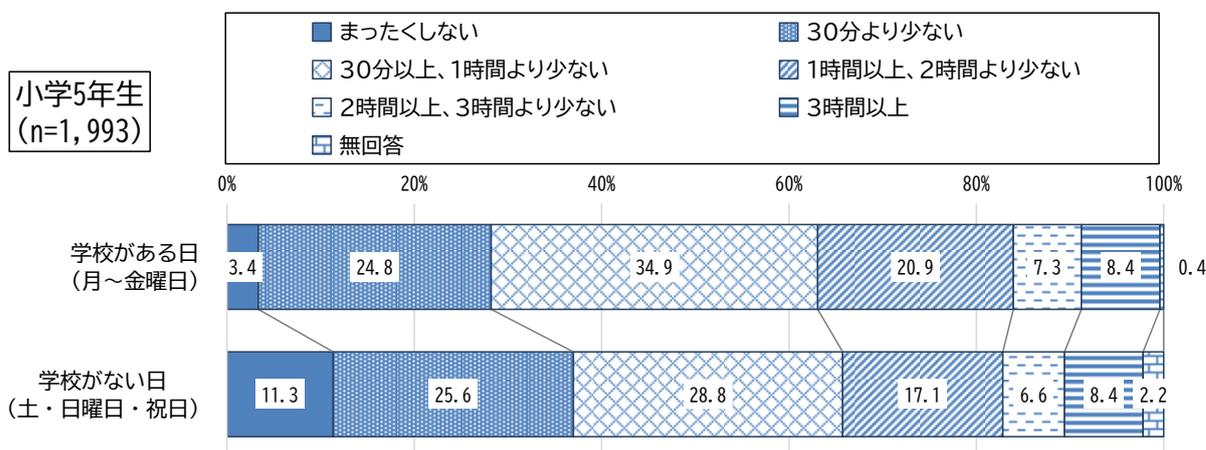
3-1 学習状況

3-1-1 ▼1日あたりの勉強時間

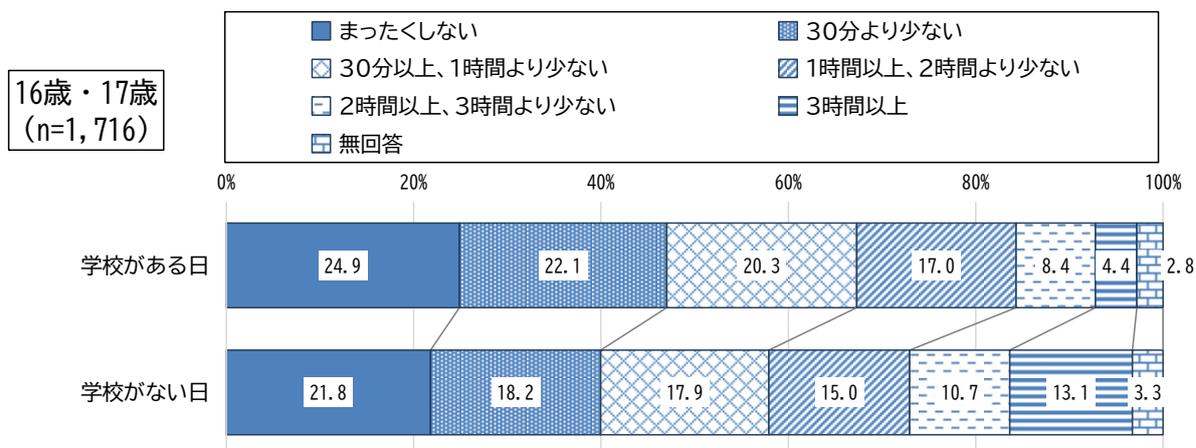
1日あたりの勉強時間について、小学5年生調査では、学校がある日・ない日ともに「30分以上、1時間より少ない」の回答割合が最も高くなっている。「まったくしない」の回答割合は、学校がある日については3.4%、学校がない日については11.3%となっている。16歳・17歳調査では、学校がある日・ない日ともに「まったくしない」の回答割合が最も高く、それぞれ2割以上となっている。

それぞれ、等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合には勉強時間が長い回答の割合が高く、「中央値の2分の1未満」に該当する場合には「まったくしない」など、勉強時間が短い回答の割合が高い傾向となっている。

<小学5年生、学校がある日・ない日の1日あたりの勉強時間>



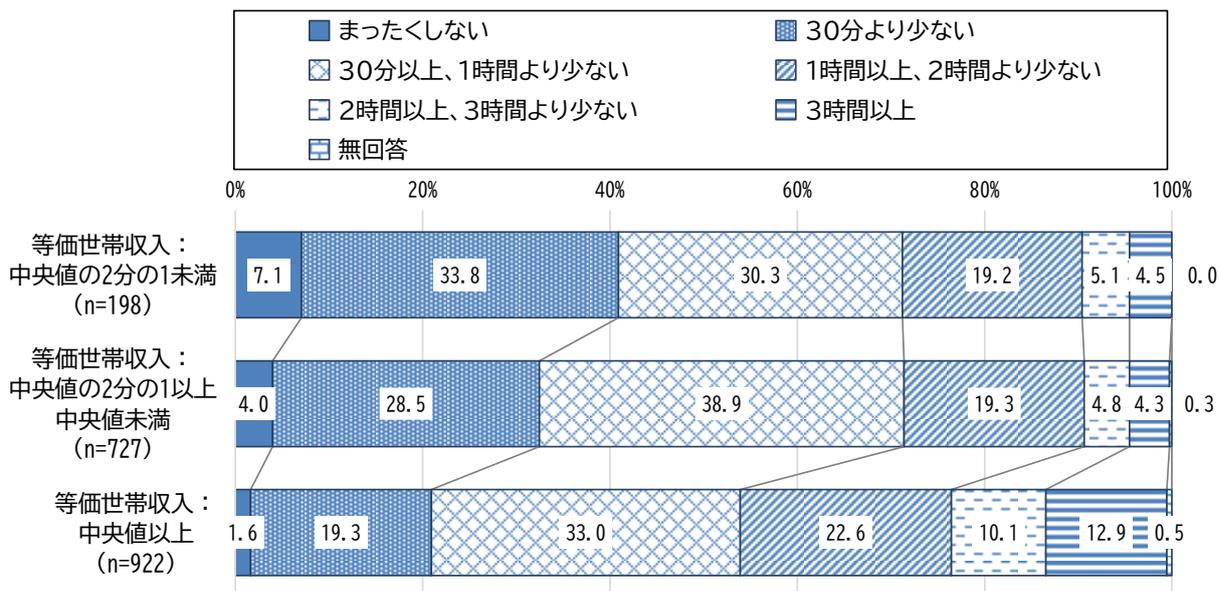
<16歳・17歳、学校がある日・ない日の1日あたりの勉強時間>



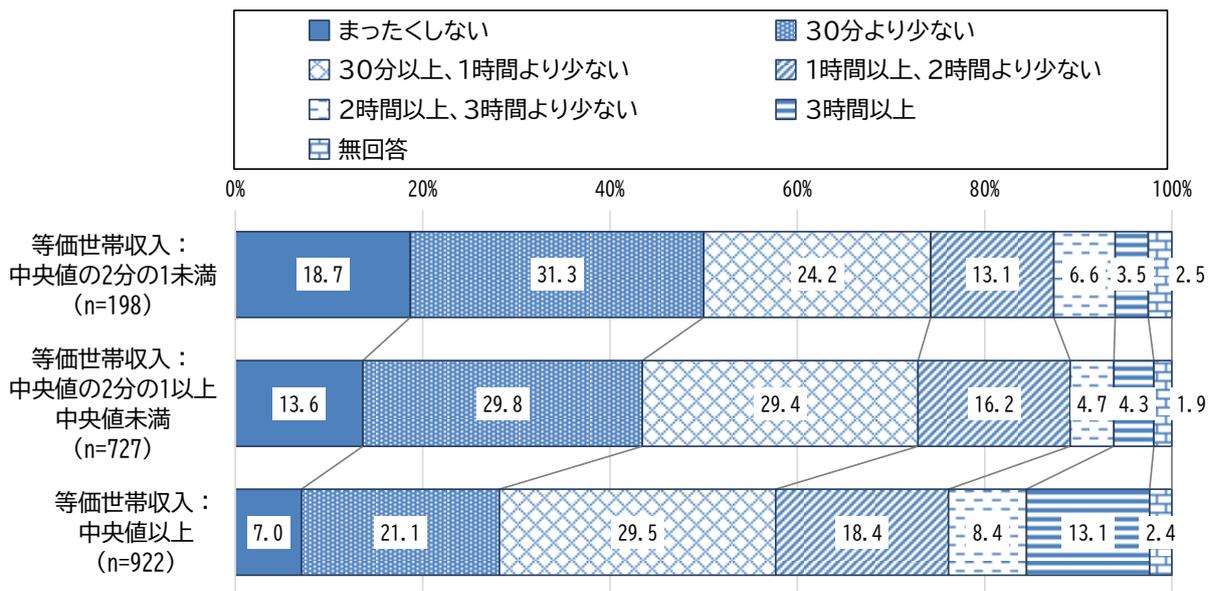
※現在学校に在籍しているもののみ集計対象となっている。

<小学5年生、等価世帯収入別、1日あたりの勉強時間>

【学校がある日(月～金曜日)】

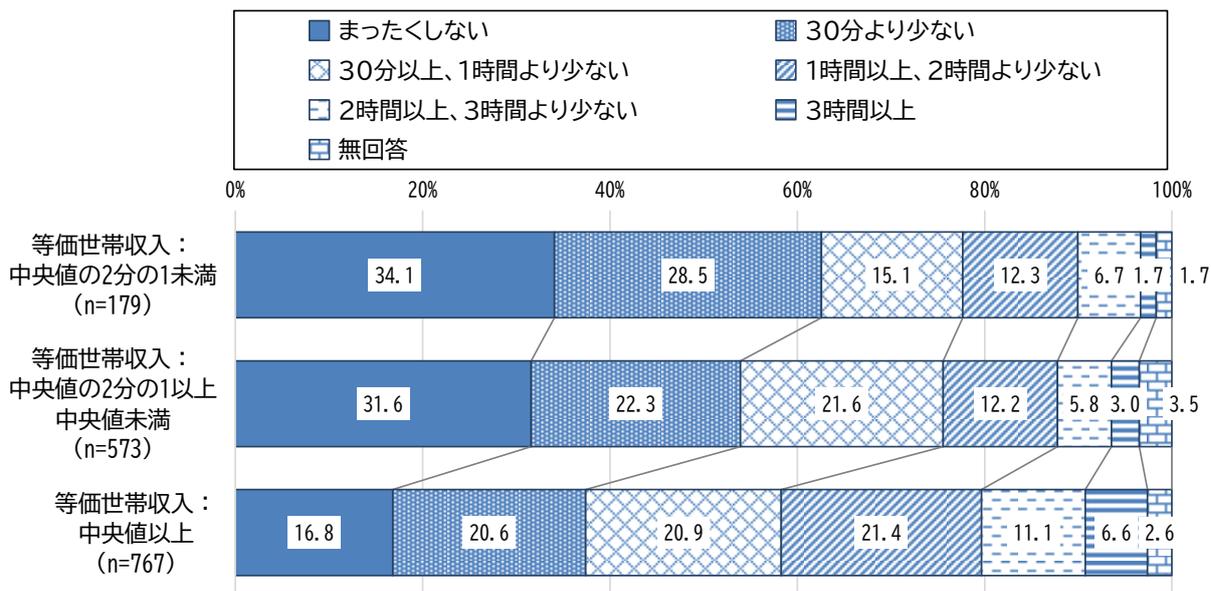


【学校がない日(土・日曜日・祝日)】

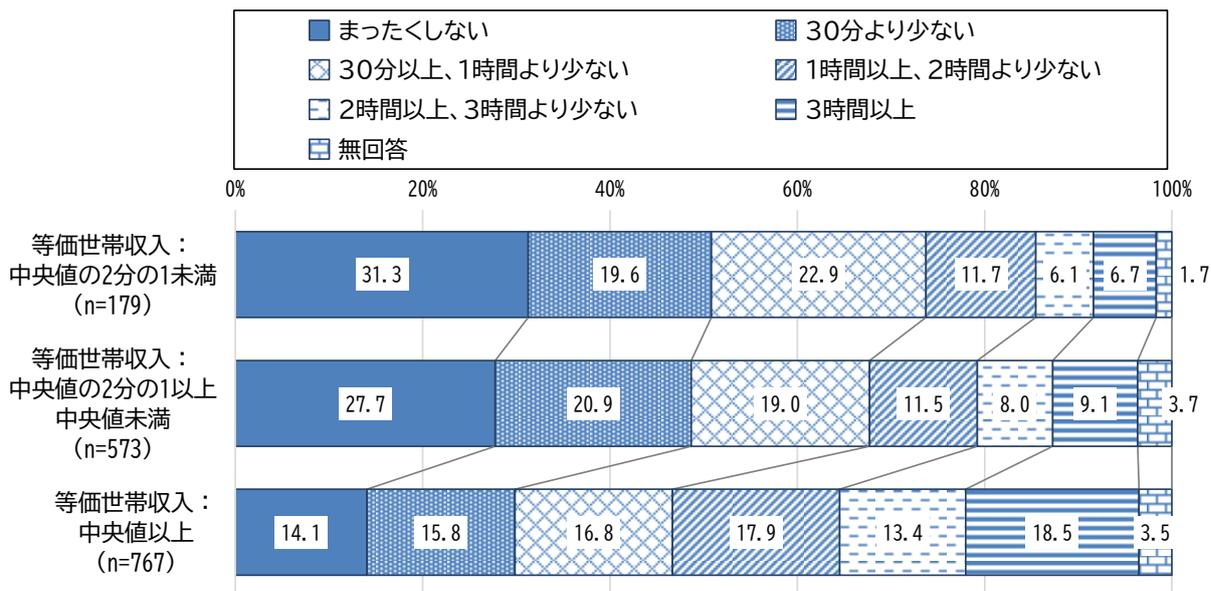


<16歳・17歳、等価世帯収入別、1日あたりの勉強時間>

【学校がある日】



【学校がない日】

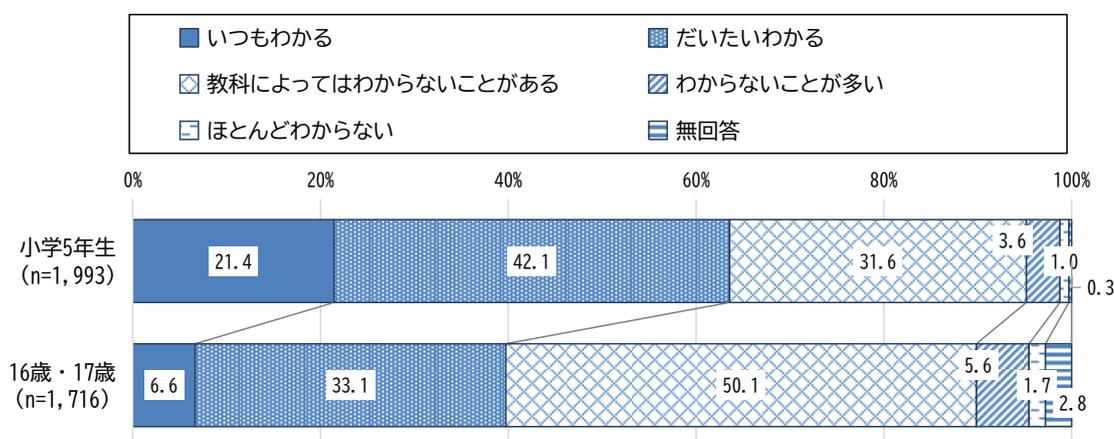


3-1-2 ▼授業の理解度

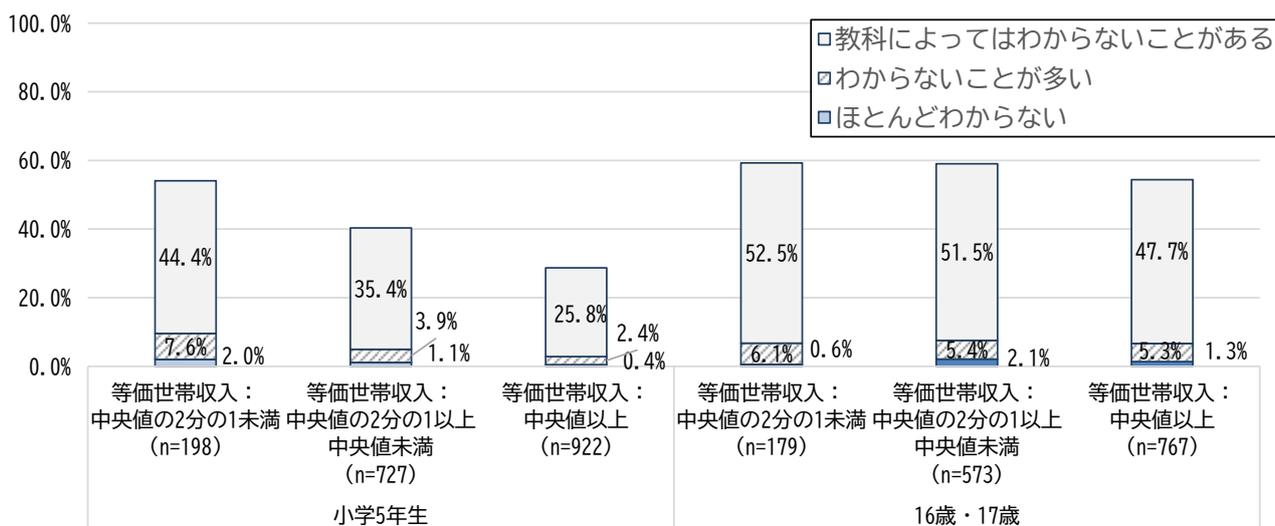
学校の授業がわからないことがあるかについて、小学5年生調査では、「だいたいわかる」の回答割合が最も高くなっている。「わからないことが多い」又は「ほとんどわからない」と回答された回答は4.6%となっている。16歳・17歳調査では、「教科によってはわからないことがある」の回答割合が最も高く、「わからないことが多い」又は「ほとんどわからない」と回答された回答は7.3%となっている。

「教科によってはわからないことがある」、「わからないことが多い」、「ほとんどわからない」のいずれかに該当する割合を等価世帯収入の水準別にみると、特に小学5年生調査では等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合には割合が低く、「中央値の2分の1未満」に該当する場合には割合が高い傾向となっている。

<学校の授業がわからないことがあるか>



<等価世帯収入別、授業の理解度>

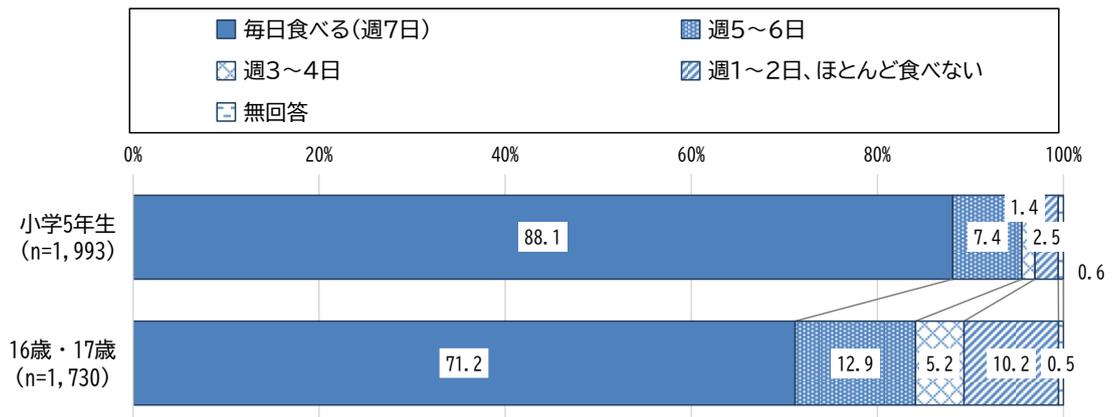


3-2 ▼食事の状況(朝食の摂取状況)

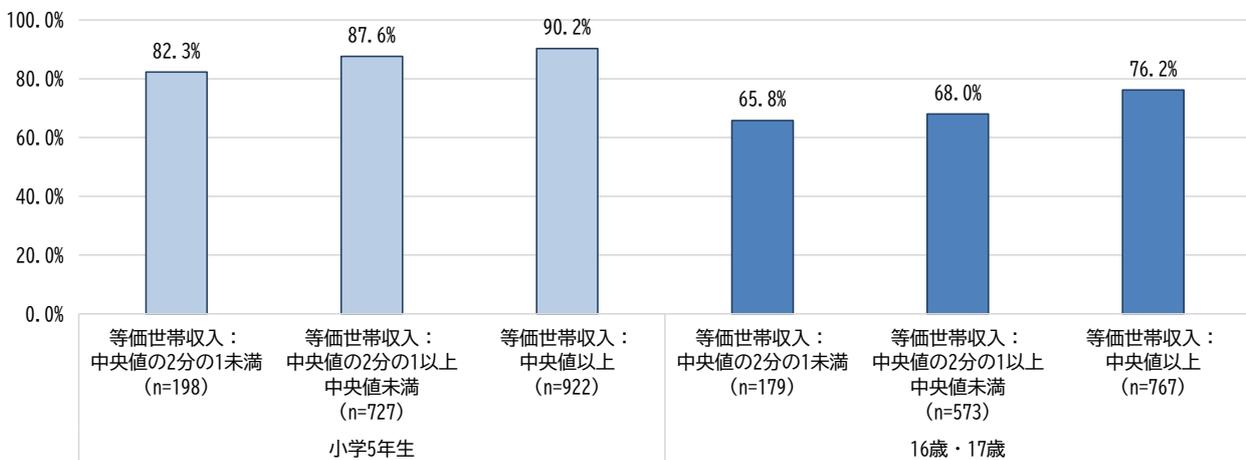
朝食を週にどれくらいとっているかについて、「毎日食べる(週7日)」の回答割合は、小学5年生調査では88.1%、16歳・17歳調査では71.2%となっている。

「毎日食べる(週7日)」の回答割合について等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査においても等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合には割合が高く、「中央値の2分の1未満」に該当する場合には割合が低い傾向となっている。

<朝食を週にどれくらいとっているか>



<等価世帯収入別、朝食の摂取状況「毎日食べる(週7日)」の割合>

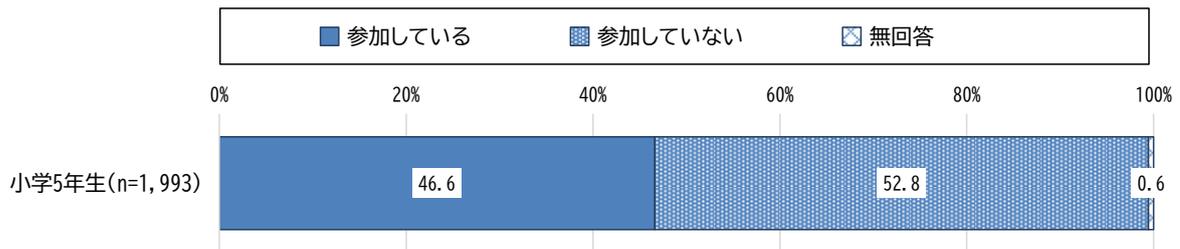


3-3 ▼部活動等の状況

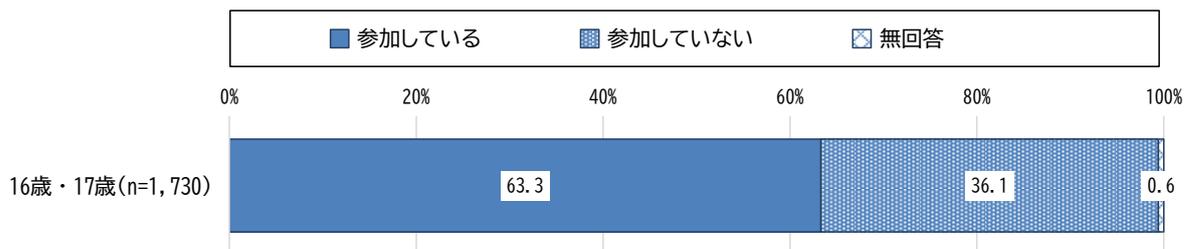
地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動の参加の状況について、「参加している」の回答割合は、小学5年生調査では46.6%、16歳・17歳調査では63.3%となっている。

「参加している」の回答割合について等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査においても等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合には割合が高く、「中央値の2分の1未満」に該当する場合には割合が低い傾向となっている。

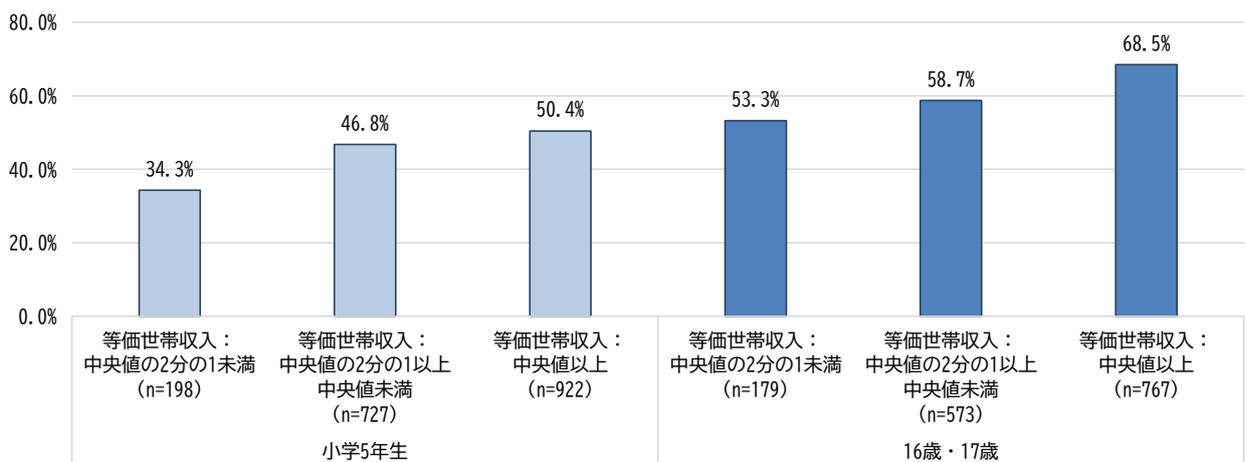
<小学5年生、地域のスポーツクラブや文化クラブの参加の有無>



<16歳・17歳、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動の参加の有無>



<等価世帯収入別、部活動等の参加状況「参加している」の割合>



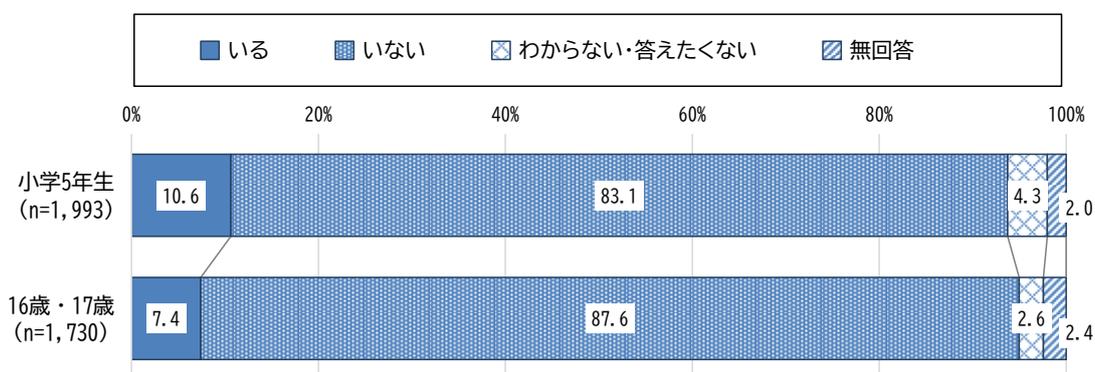
3-4 ▼ヤングケアラーの状況

3-4-1 ▼該当の有無

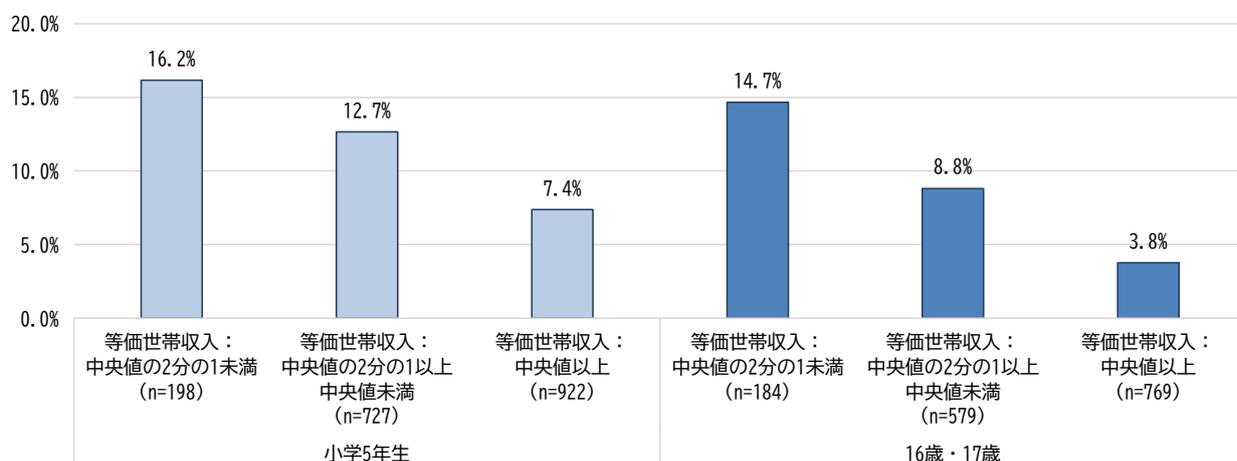
家族の中にお世話をしている人がいるかについて、「いる」の回答割合は、小学5年生調査では10.6%、16歳・17歳調査では7.4%となっている。

「いる」の回答割合について等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査においても等価世帯収入の水準が「中央値以上」に該当する場合には割合が低く、「中央値の2分の1未満」に該当する場合には割合が高い傾向となっている。

<家族の中にお世話をしている人がいるか>



<等価世帯収入別、家族の中にお世話をしている人がいるかについて「いる」の割合>

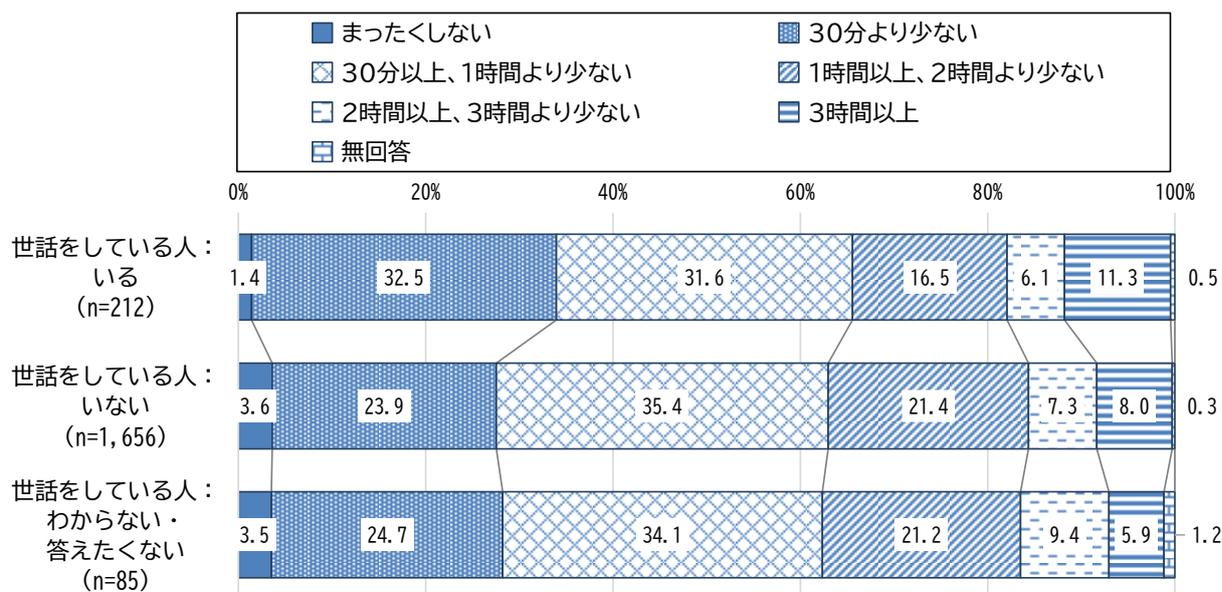


3-4-2 ▼ヤングケアラーの状況と勉強時間

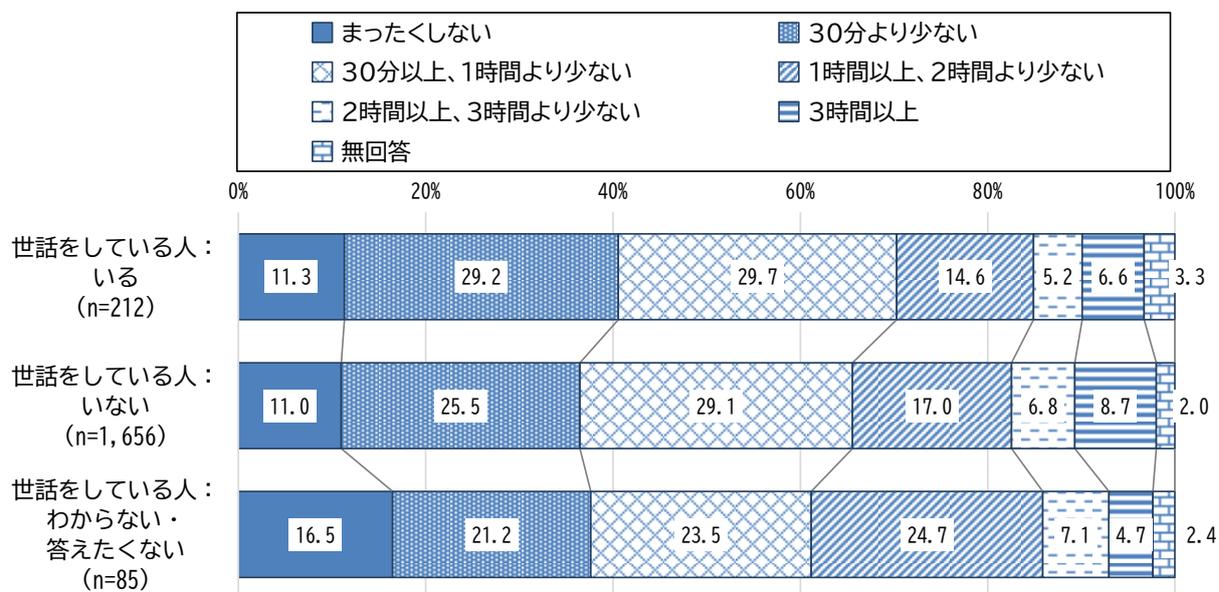
1日あたりの勉強時間について、家族の中にお世話をしている人がいるかの状況別(ヤングケアラーの状況別)にみると、特に16歳・17歳調査について、お世話をしている人が「いる」場合に、学校がある日・ない日ともに「まったくしない」の回答割合が高い傾向となっている。

<小学5年生、ヤングケアラーの状況別、1日あたりの勉強時間>

【学校がある日(月～金曜日)】

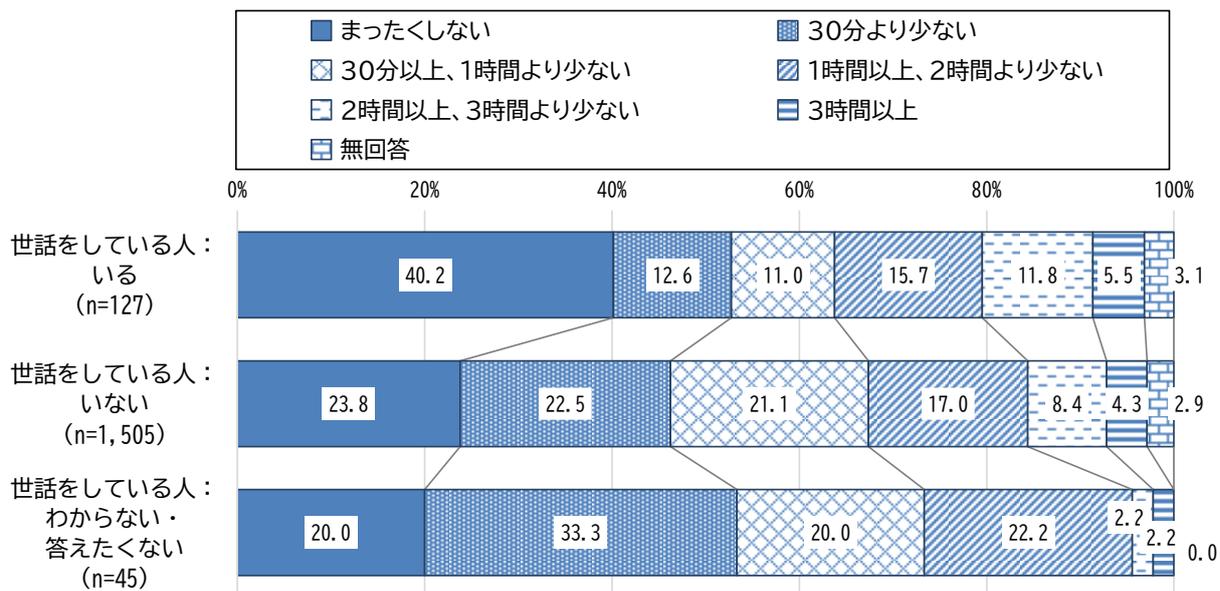


【学校がない日(土・日曜日・祝日)】

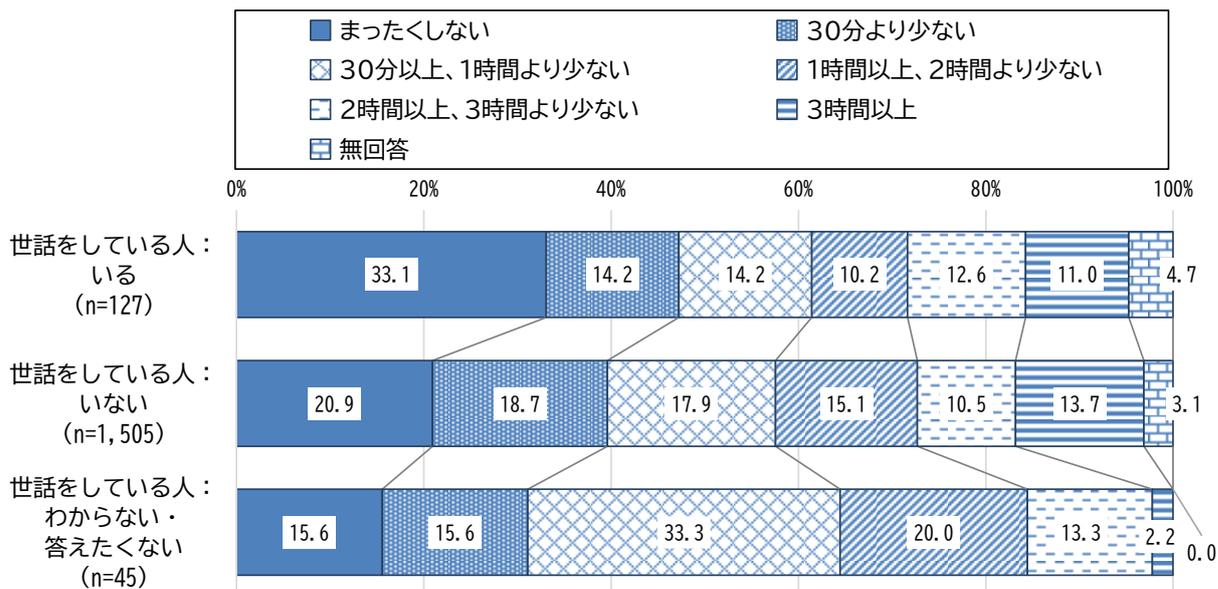


<16歳・17歳、ヤングケアラーの状況別、1日あたりの勉強時間>

【学校がある日】



【学校がない日】

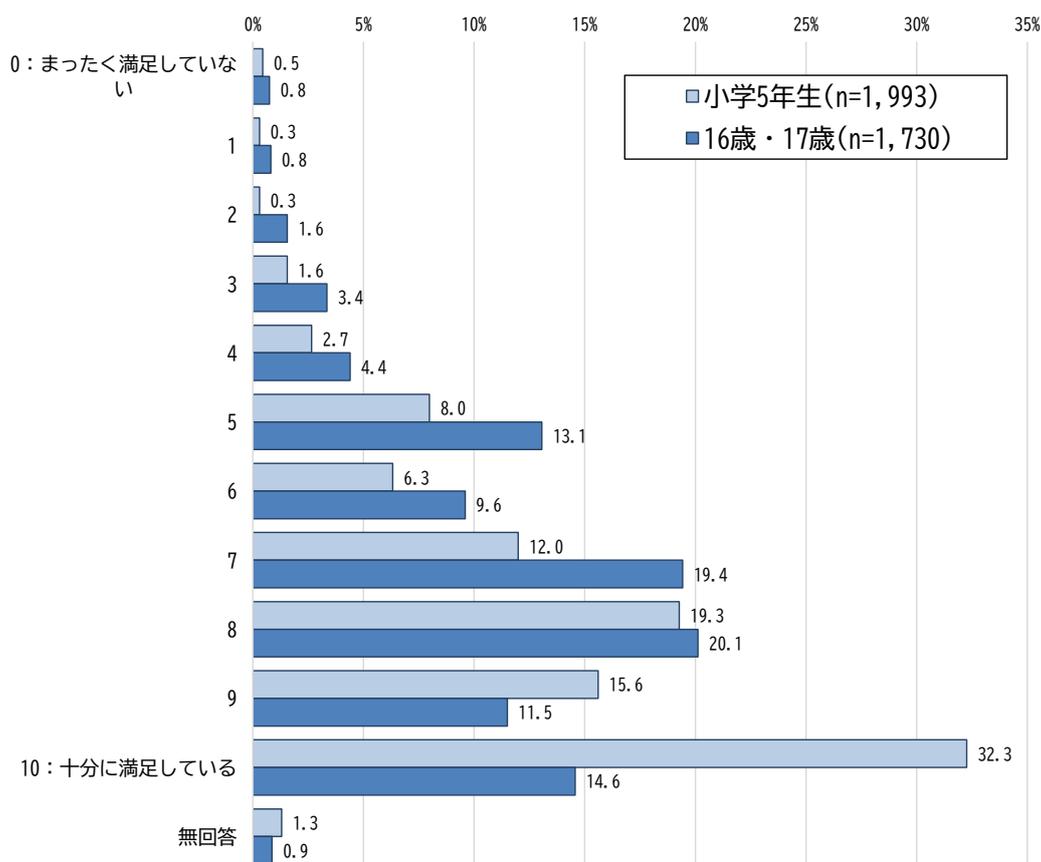


3-5 ▼生活満足度

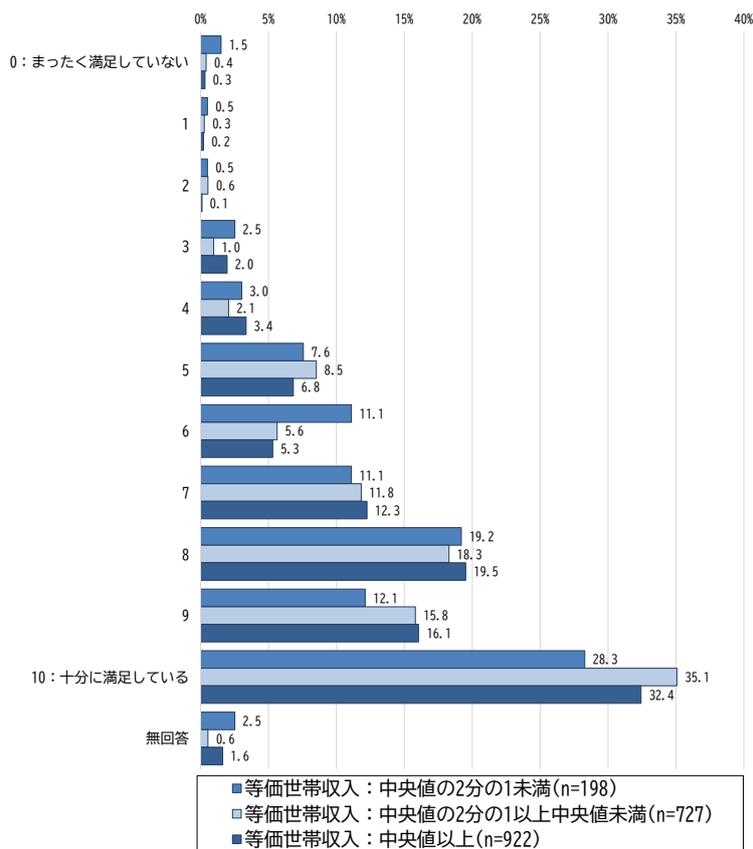
生活満足度について、「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の11段階による回答においては、小学5年生調査では「10」の回答割合が最も高く、次いで「8」の回答割合が高くなっている。16歳・17歳調査では「8」の回答割合が最も高く、次いで「7」の回答割合が高くなっている。

生活満足度について等価世帯収入の水準別にみると、いずれの調査でも「中央値の2分の1未満」に該当する場合には生活満足度が低い傾向となっている。

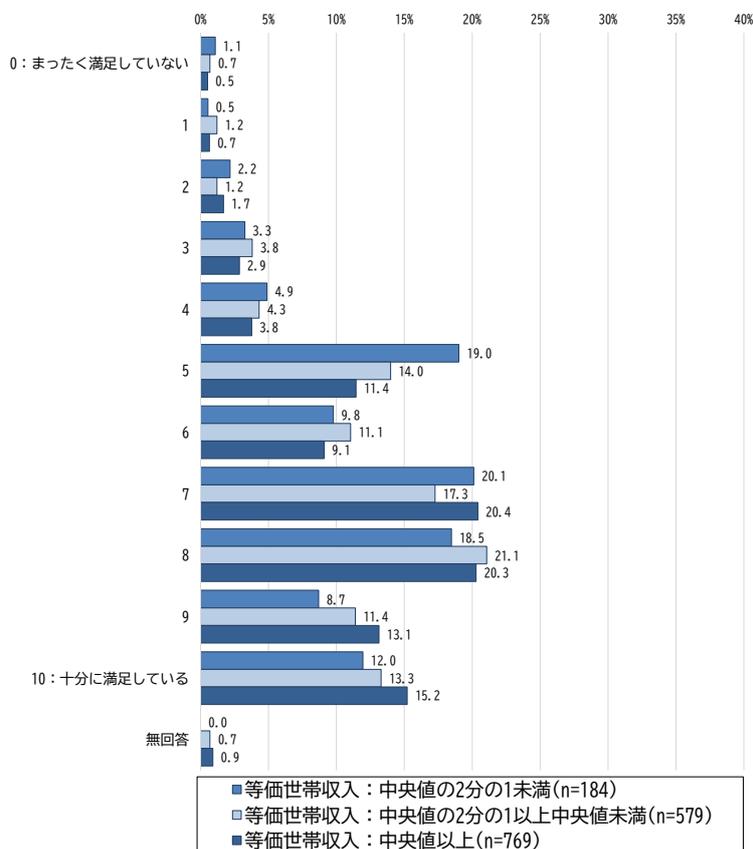
<生活満足度>



<小学5年生、等価世帯収入の水準別、生活満足度>



<16歳・17歳、等価世帯収入の水準別、生活満足度>



4. 調査結果(希望する行政支援)

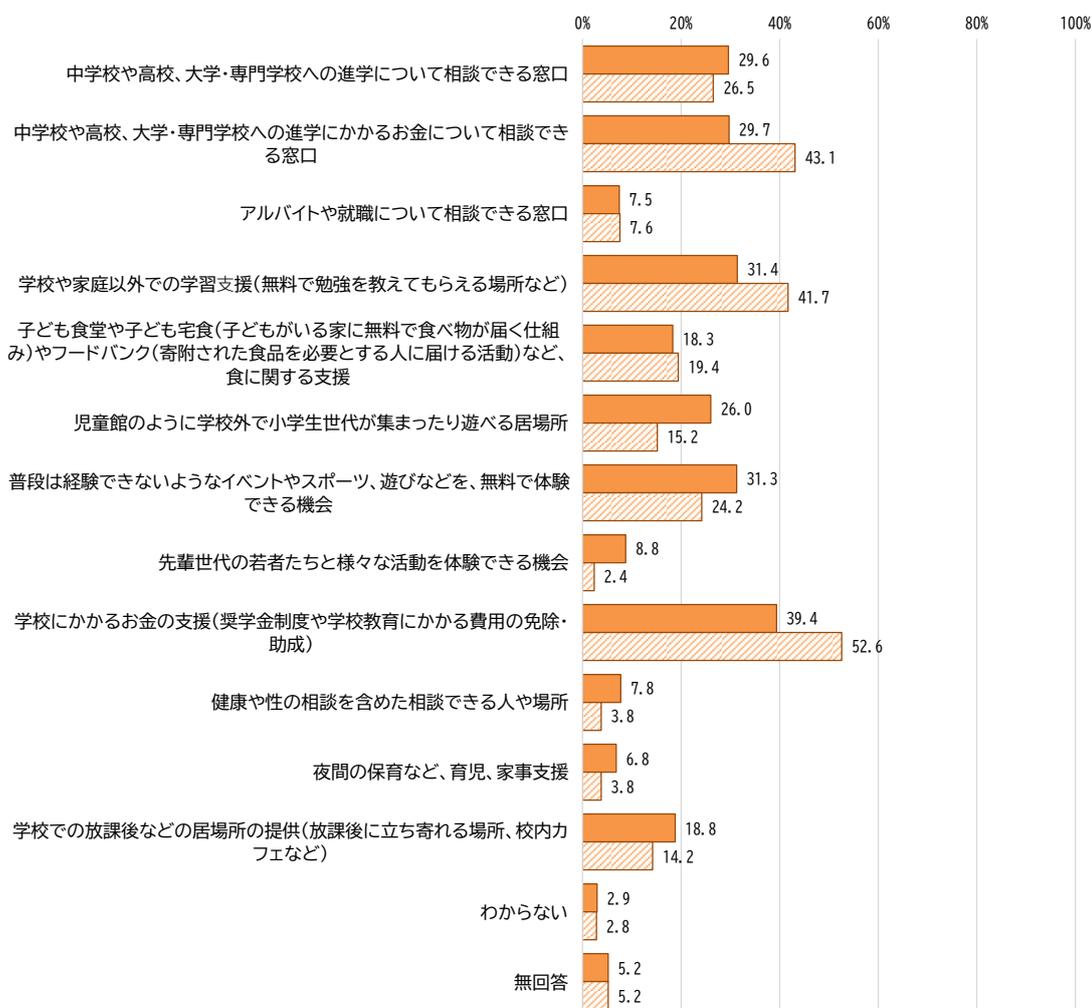
4-1 ▼保護者が希望する行政支援

4-1-1 ▼小学5年生保護者が希望する行政支援

困難な状況にあるときに、どのような支援が必要だと考えるかについて、小学5年生保護者調査全体の回答としては、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」の回答割合が最も高く、次いで「学校や家庭以外での学習支援(無料で勉強を教えてもらえる場所など)」、「普段は経験できないようなイベントやスポーツ、遊びなどを、無料で体験できる機会」の割合が高くなっている。

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合の回答結果をみると、「中学校や高校、大学・専門学校への進学にかかるお金について相談できる窓口」、「学校や家庭以外での学習支援(無料で勉強を教えてもらえる場所など)」、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」などについて、全体よりも回答割合が高い傾向になっている。

<小学5年生保護者、希望する行政支援>



■小学5年生保護者：全体(n=2,076)

□小学5年生保護者：等価世帯収入「中央値の2分の1未満」(n=211)

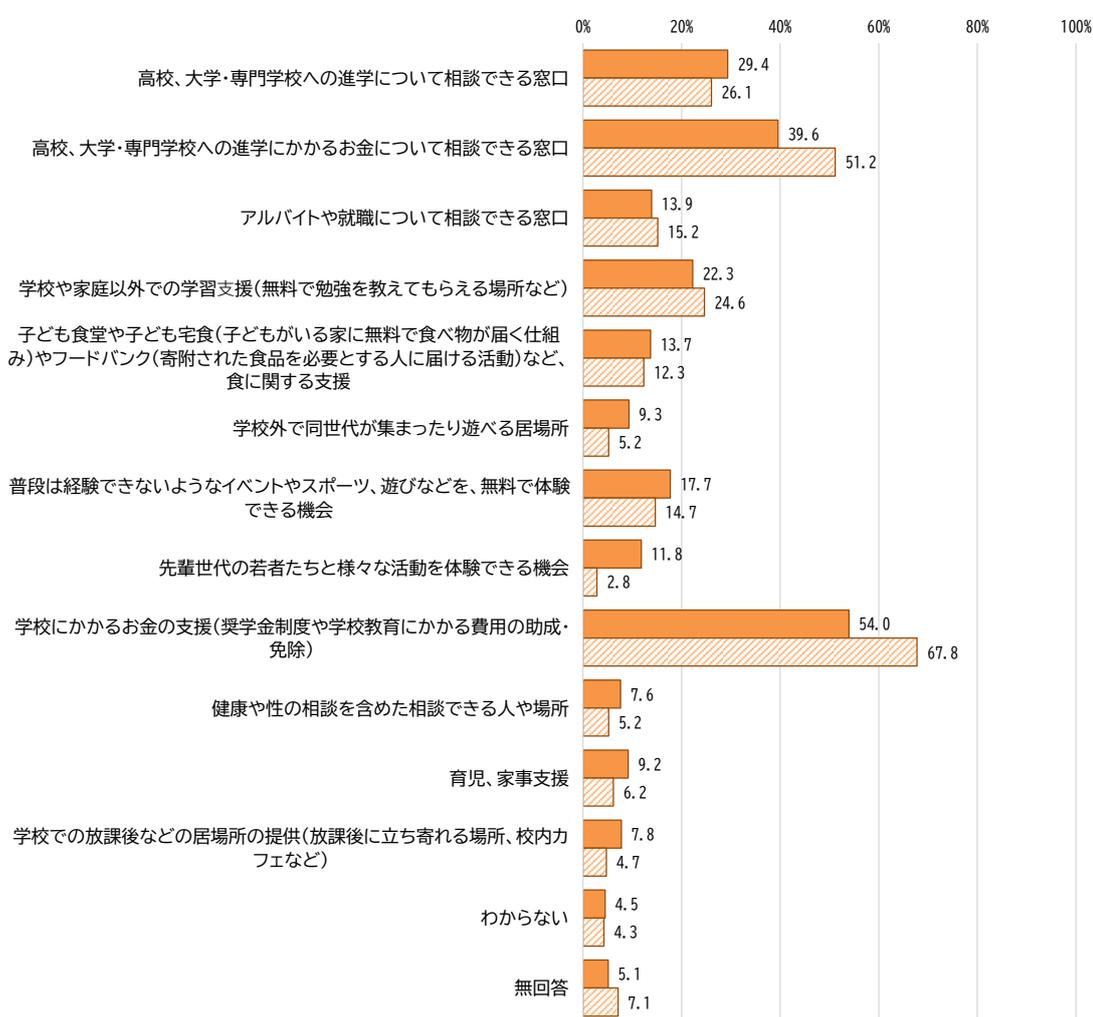
※あてはまるものを3つまで選択する設問。

4-1-2 ▼16 歳・17 歳保護者が希望する行政支援

困難な状況にあるときに、どのような支援が必要だと考えるかについて、16 歳・17 歳保護者調査全体の回答としては、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」の回答割合が最も高く、次いで「高校、大学・専門学校への進学にかかるお金について相談できる窓口」、「高校、大学・専門学校への進学について相談できる窓口」の割合が高くなっている。

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合の回答結果をみると、「高校、大学・専門学校への進学にかかるお金について相談できる窓口」、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」などについて、全体よりも回答割合が高い傾向になっている。

<16 歳・17 歳保護者、希望する行政支援>



■ 16歳・17歳保護者：全体(n=1,801)

□ 16歳・17歳保護者：等価世帯収入「中央値の2分の1未満」(n=211)

※あてはまるものを3つまで選択する設問。

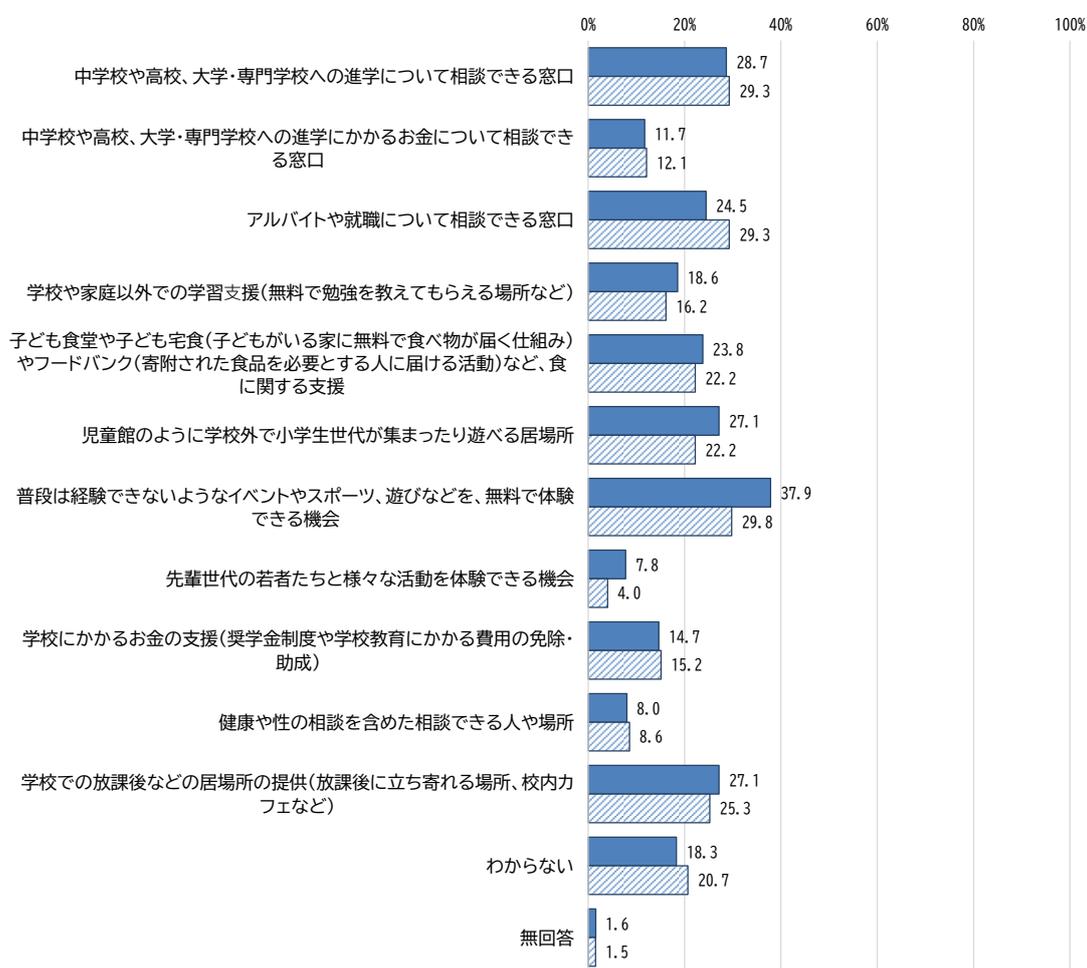
4-2 ▼こどもが希望する行政支援

4-2-1 ▼小学5年生が希望する行政支援

困難な状況にあるときに、どのような支援が必要だと考えるかについて、小学5年生全体の回答としては、「普段は経験できないようなイベントやスポーツ、遊びなどを、無料で体験できる機会」の回答割合が最も高く、次いで「中学校や高校、大学・専門学校への進学について相談できる窓口」の割合が高くなっている。

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合の回答結果をみると、「アルバイトや就職について相談できる窓口」や「わからない」などについて、全体よりも回答割合が高い傾向になっている。

<小学5年生、希望する行政支援>



■小学5年生：全体(n=1,993)

□小学5年生：等価世帯収入「2分の1未満」(n=198)

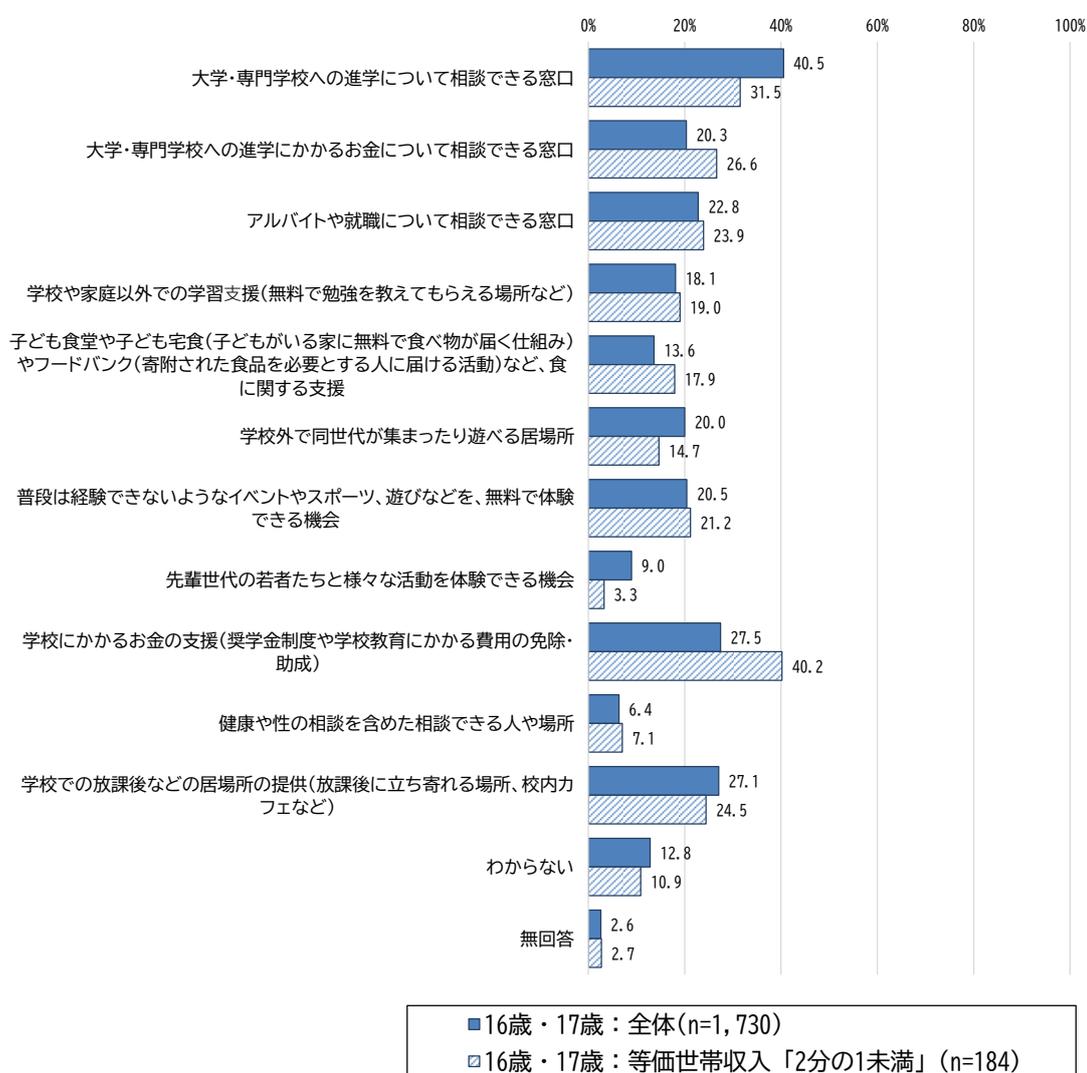
※あてはまるものを3つまで選択する設問。

4-2-2 ▼16 歳・17 歳が希望する行政支援

困難な状況にあるときに、どのような支援が必要だと考えるかについて、16 歳・17 歳全体の回答としては、「大学・専門学校への進学について相談できる窓口」の回答割合が最も高く、次いで「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」の割合が高くなっている。

等価世帯収入の水準が「中央値の2分の1未満」に該当する場合の回答結果をみると、「大学・専門学校への進学にかかるお金について相談できる窓口」、「子ども食堂や子ども宅食(子どもがいる家に無料で食べ物が届く仕組み)やフードバンク(寄附された食品を必要とする人に届ける活動)など、食に関する支援」、「学校にかかるお金の支援(奨学金制度や学校教育にかかる費用の免除・助成)」などについて、全体よりも回答割合が高い傾向になっている。

<16 歳・17 歳、希望する行政支援>



※あてはまるものを3つまで選択する設問。